竹下復興大臣臨時記者会見録

（平成27年1月22日（木）13：33～13：38　於）岩手県山田町）

１．発言要旨

今日は宮古市とこの山田町を訪問させていただきました。

宮古市におきましては、田老地区、それから津軽石地区等々をじっくりと見させていただきまして、山本市長ともしっかりと話をさせていただきました。

また、この山田町におきましては、織笠地区を初め、そして、今、ここにあります五篤丸さんのところにも訪問させていただいて。また、佐藤町長とも、本当にしっかりと、いろんな議論をさせていただきました。お二人の首長からは、1つは、28年度以降の集中復興期間が終わった後の復興の在り方について、強い要望をいただきました。また、これから住宅建築が本格化することに伴いまして、人件費の高騰、資材の確保等々に、格段の配慮をしてほしい、といったような要請も受けました。

私のほうからは、そういう要請に対しまして、「必ず復興はやり遂げます」と、「27年度の集中復興期間が終われば終わるんではなくて、復興が終わるまでが復興である」という、われわれは決意でありますので、「そこは心配しないでください」ということは、お話をいたしました。

ただ、財源については、まだお話のできる状況には、とてもなっておりませんので。しかし、私としては、今後の5年間というものをにらんだ復興の在り方、財源の在り方といったようなものをお示しすることが、被災地の皆さん方にとって安心して復興を進めることができる礎になると、こう確信をしていると、その方向で努力をいたしますということを、お話をさせていただきました。

私からは、以上でございます。

２．質疑応答

（問）再生可能エネルギーについて、伺いたいんですけれども。宮古市も、震災の教訓を受けて、重点的に取り組んでいる、ということなんですけれども、国として、復旧に向けてどのような支援策を今後考えていかれるか、あと、どのように評価しているかというのを伺いたいと思います。

（答）再生可能エネルギーの復旧拡大というのは、被災地だけじゃなくて、日本国にとっての大きな課題だと認識をいたしております。

特に、被災地においては、災害に遭って、電気がないということを経験していらっしゃいますから、再生可能エネルギーというものの重要性というのは、より深く認識をいただいておるものと、私は思っておりますし、それぞれの県や市や町が、いろんな形で、バイオマスですとか、あるいは太陽光ですとか、あるいは風力ですとか、様々な形で、いろんなことを検討していらっしゃいます。ぜひやっていただきたいと、こう思っております。

（問）今日、いろいろ視察をされる中で、住宅の建築など、進んでいる部分も見られたかと思うんですけれども、一方で、やはり震災4年を迎える中で、多くの方がまだ仮設住

宅にいて、他地域への流出などで、沿岸部の人口減少というのも大きな問題になっているかと思うんですが、今日視察された部分も含めて、どのように、今お感じになられていて、どのように対策していかなければいけないか、お考えをいただければと思うんですが。

（答）先ほど、織笠地区の工事現場を見せていただきまして、今年3月いっぱいで第1期工事が終わって、ようやく土地を引き渡すことができると。その抽選がしっかりできるという話も伺いまして、「ああ、進んでいるな」ということを感じる一方で、まだまだのところもたくさんあります。

現実に、23万人の方が、まだ避難生活を送っていらっしゃる。このうちの12万人は、仮設住宅で避難生活を送っていらっしゃると。この現実を、我々はしっかりと受け止めて、復興というものに、立ち向かっていかなければならない。

私たちが目指しておりますのは、「帰りたい」という意思を持っていらっしゃる方には、必ずあたたかい家庭と、あたたかいふるさとを取り戻してもらうと、そこまで、復興はやっていかなきゃならんと、こういう思いで、これからますます加速化していかなければならないと、痛感をいたしております。

（以　　上）